

# 青森県経済統計報告

平成 29 年 11 月 1 日

企画政策部統計分析課

## 1 青森県の推計人口(平成 29 年 10 月 1 日現在)..... 1

県人口 1,278,581 人 (対前月 416 人減少)	
自然動態	565 人減少 (出生者数 721 人、死亡者数 1,286 人)
社会動態	149 人増加 (転入者数 1,578 人、転出者数 1,429 人)

## 2 本県の経済動向 (平成 29 年 8 月・9 月の経済指標を中心として)

### (1) 経済概況

本県経済は、緩やかに回復している。  
景況感(青森県景気ウォッチャー調査結果)をみると、現状判断DIは46.5と50を下回ったものの、先行き判断DIは51.8と3期連続で50を上回った。

### (2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・平成 29 年 8 月の**青森県鉱工業生産指数**(平成 22 年=100)は、季節調整済指数が 113.3 で、前月比 3.7%の上昇となり、2 カ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は 108.3 で、前年同月比 5.6%の上昇となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。 ... 2
- (2-2) 雇用労働 ・平成 29 年 8 月の**定期給与**は 227,135 円で前年同月比 7.1%増となった。 ... 3  
**総実労働時間**は 152.0 時間で前年同月比 2.4%増、**所定外労働時間**は 11.6 時間で前年同月比 25.2%増となった。  
・平成 29 年 9 月の**有効求人倍率**(季節調整値)は 1.24 倍で、前月を 0.02 ポイント下回った。
- (2-3) 物 価 平成 29 年 9 月の**青森市消費者物価指数**(平成 27 年=100)は、総合指数が 100.3 となり、前月と同水準、前年同月比 0.9%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 101.4 となり、前月と同水準、前年同月比 0.5%の上昇となった。 ... 5
- (2-4) 個人消費 ・平成 29 年 9 月の**百貨店・スーパー販売額**は、全店舗ベースが 128 億円で前年同月比 2.3%増となり、4 カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比 1.6%増となり、4 カ月連続で前年同月を上回った。 ... 6  
・平成 29 年 9 月の軽自動車を含めた**乗用車新車登録・届出数**は 4,356 台で、前年同月比 5.1%増となり、12 カ月連続で前年同月を上回った。  
・平成 29 年 9 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 939 千人で前年同月比 1.9%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は 148 千人で前年同月比 7.6%増となり、2 カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-5) 建 設 ・平成 29 年 9 月の**新設住宅着工戸数**は 694 戸で、前年同月比 4.5%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。 ... 7  
・平成 29 年 9 月の**公共工事請負額**は 206 億 5,100 万円で前年同月比 12.8%減となり、3 カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 平成 29 年 9 月の**企業倒産**は、件数は 2 件で前年同月比 77.8%減となった。 ... 8  
負債総額は 3,500 万円で前年同月比 95.3%減となった。

### (3) 景気動向指数CI (平成 29 年 8 月分) ..... 9

先行指数	151.4 (前月を 6.2 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した)
一致指数	199.4 (前月を 11.9 ポイント上回り、3 カ月ぶりに上昇した)
遅行指数	117.5 (前月を 1.1 ポイント下回り、4 カ月ぶりに下降した)

### (4) 青森県景気ウォッチャー調査(平成 29 年 10 月期) ..... 10

3 カ月前と比べた景気現状判断DI	46.5(前期比 4.3 ポイント減、3 期ぶりで 50 を下回る)
3 カ月後の景気先行き判断DI	51.8(前期比 0.3 ポイント増、3 期連続で 50 を上回る)

# 1 青森県の推計人口（平成29年10月1日現在）

## 【概況】

平成29年10月1日現在の本県推計人口は、1,278,581人で、前月に比べ416人の減少となった。

### ○自然動態

出生者数が721人、死亡者数が1,286人で、565人の減少となった。

### ○社会動態

転入者数が1,578人、転出者数が1,429人で、149人の増加となった。

## 総人口の推移

(単位：人)

	総計	男	女	対前月増減率	増減数	自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
昭 45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
28.10.1	1,293,681	607,729	685,952	-0.041%	-528	-594	742	1,336	66	1,478	1,412
28.11.1	1,293,130	607,473	685,657	-0.043%	-551	-677	758	1,435	126	1,353	1,227
28.12.1	1,292,212	607,074	685,138	-0.071%	-918	-802	711	1,513	-116	1,002	1,118
29. 1. 1	1,291,206	606,639	684,567	-0.078%	-1,006	-819	666	1,485	-187	920	1,107
29. 2. 1	1,290,008	606,029	683,979	-0.093%	-1,198	-1,115	704	1,819	-83	978	1,061
29. 3. 1	1,288,791	605,418	683,373	-0.094%	-1,217	-857	621	1,478	-360	999	1,359
29. 4. 1	1,282,545	602,241	680,304	-0.485%	-6,246	-900	665	1,565	-5,346	3,993	9,339
29. 5. 1	1,282,136	602,187	679,949	-0.032%	-409	-803	624	1,427	394	3,420	3,026
29. 6. 1	1,281,461	601,833	679,628	-0.053%	-675	-752	738	1,490	77	1,366	1,289
29. 7. 1	1,280,651	601,351	679,300	-0.063%	-810	-674	643	1,317	-136	1,193	1,329
29. 8. 1	1,279,829	601,046	678,783	-0.064%	-822	-672	651	1,323	-150	1,699	1,849
29. 9. 1	1,278,997	600,700	678,297	-0.065%	-832	-742	669	1,411	-90	1,685	1,775
29.10.1	1,278,581	600,560	678,021	-0.033%	-416	-565	721	1,286	149	1,578	1,429

## 9月中の人口動態の推移

(単位：人)

	年月	H19.9	20.9	21.9	22.9	23.9	24.9	25.9	26.9	27.9	28.9	29.9
自然動態	出生者数	765	905	807	810	781	736	750	831	736	742	721
	死亡者数	1,042	1,167	1,219	1,297	1,224	1,181	1,273	1,434	1,328	1,336	1,286
	自然増減数	-277	-262	-412	-487	-443	-445	-523	-603	-592	-594	-565
社会動態	県外からの転入者数	1,710	1,688	1,538	1,571	1,474	1,382	1,563	1,528	1,521	1,478	1,578
	県外への転出者数	2,020	1,828	1,678	1,493	1,584	1,491	1,498	1,491	1,622	1,412	1,429
	社会増減数	-310	-140	-140	78	-110	-109	65	37	-101	66	149
	増減数計	-587	-402	-552	-409	-553	-554	-458	-566	-693	-528	-416

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

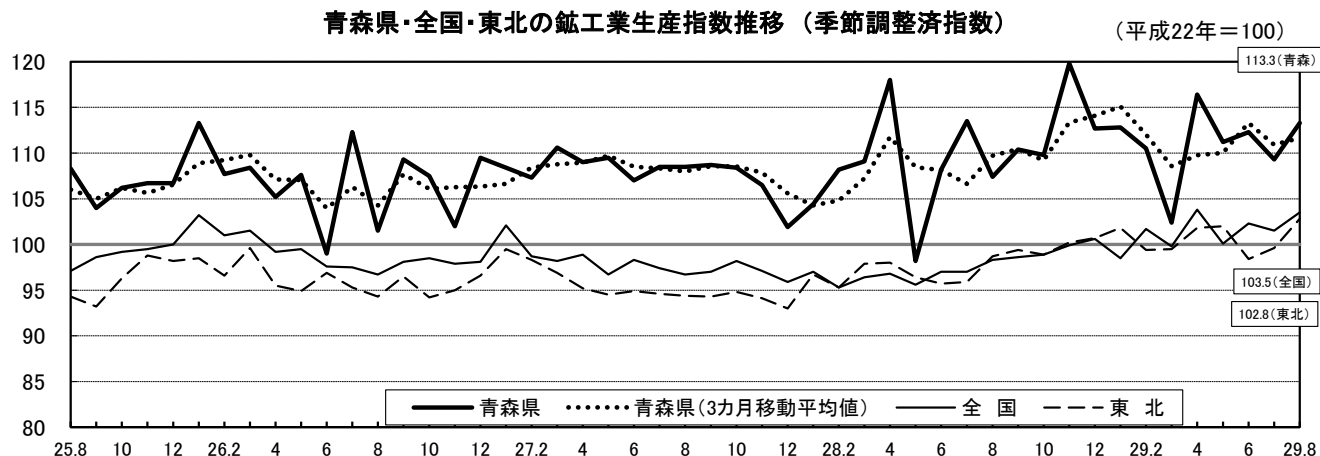
## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

#### (2-1) 生産動向

平成29年8月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が113.3で、前月比3.7%の上昇となり、2カ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は108.3で、前年同月比5.6%の上昇となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電子部品・デバイス工業、生産用機械工業、業務用機械工業などが上昇に寄与した一方、化学工業、はん用機械工業、金属製品工業などが低下し、鉱工業全体では3.7%の上昇となった。

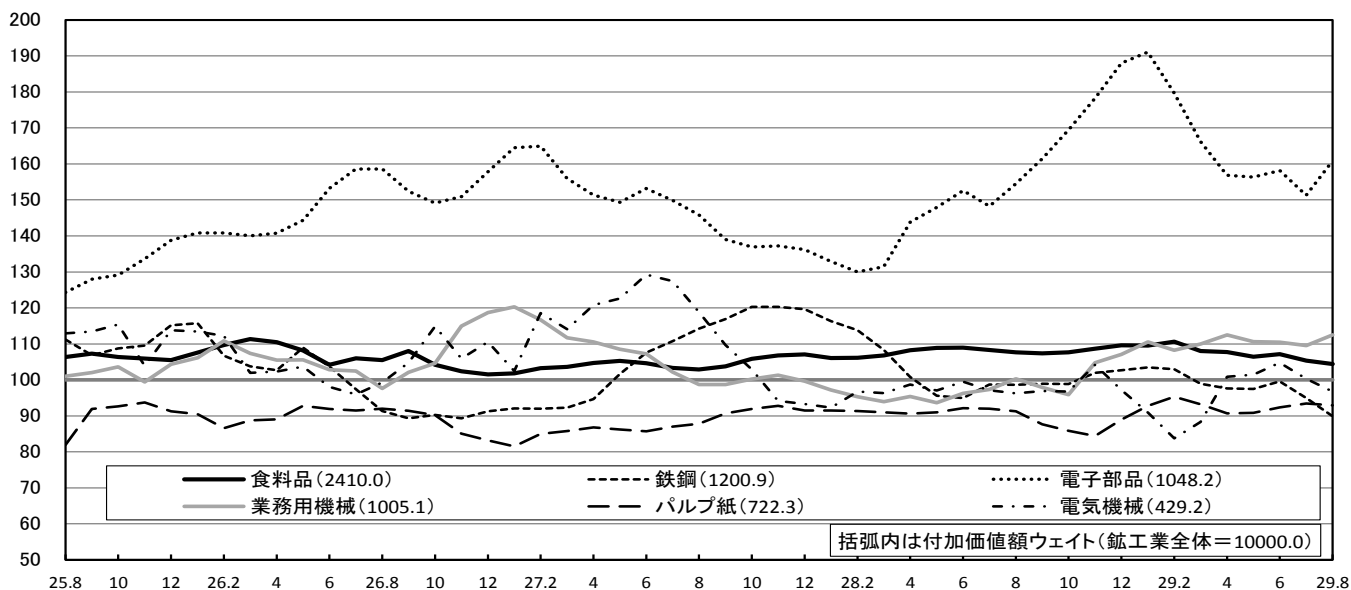


◎業種別動向 (前月比) 鉱工業全体 3.7%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
電子部品・デバイス工業	33.5	243.1	化学工業	-88.4	-212.1
生産用機械工業	223.6	201.3	はん用機械工業	-76.5	-62.7
業務用機械工業	5.8	33.7	金属製品工業	-15.3	-48.0
食料品工業	2.2	28.2	電気機械工業	-19.2	-42.8
鉄鋼業	1.3	6.7	輸送機械工業	-9.9	-32.1

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成22年=100)



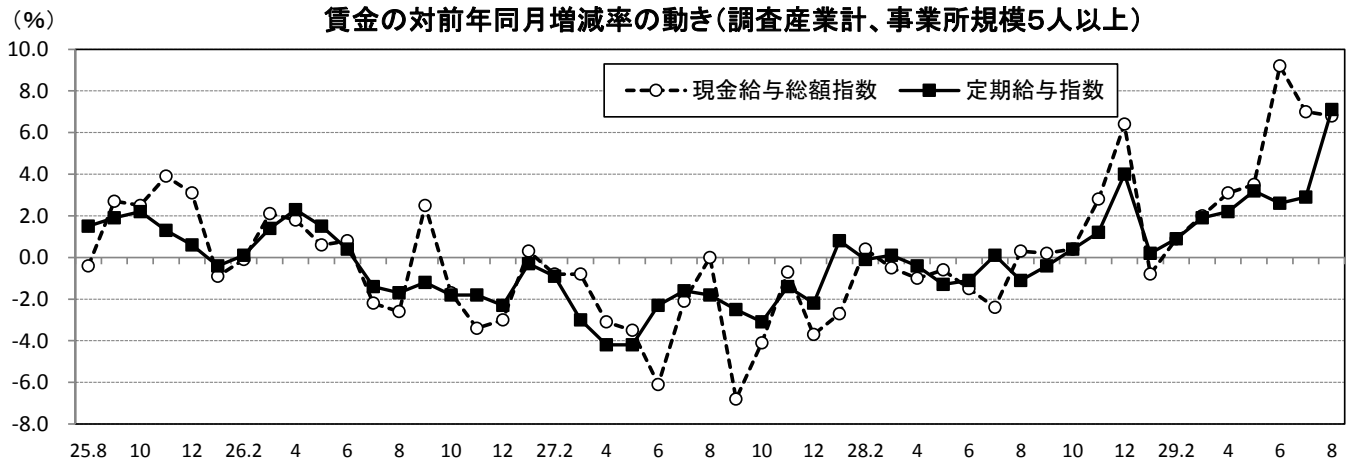
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-2) 雇用労働

### (2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

平成29年8月の定期給与は227,135円で、定期給与指数（平成27年=100）では105.1となり、前年同月比7.1%増と11カ月連続の増（現金給与総額245,172円、現金給与総額指数97.7、前年同月比6.8%増）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は87.6となった。

総実労働時間は152.0時間で、総実労働時間指数は98.3となり、前年同月比2.4%増と9カ月連続の増となった。このうち、所定外労働時間は11.6時間で、所定外労働時間指数は100.9となり、前年同月比25.2%増と9カ月連続の増となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

### 賃金及び労働時間の全国との比較(調査産業計、事業所規模5人以上)

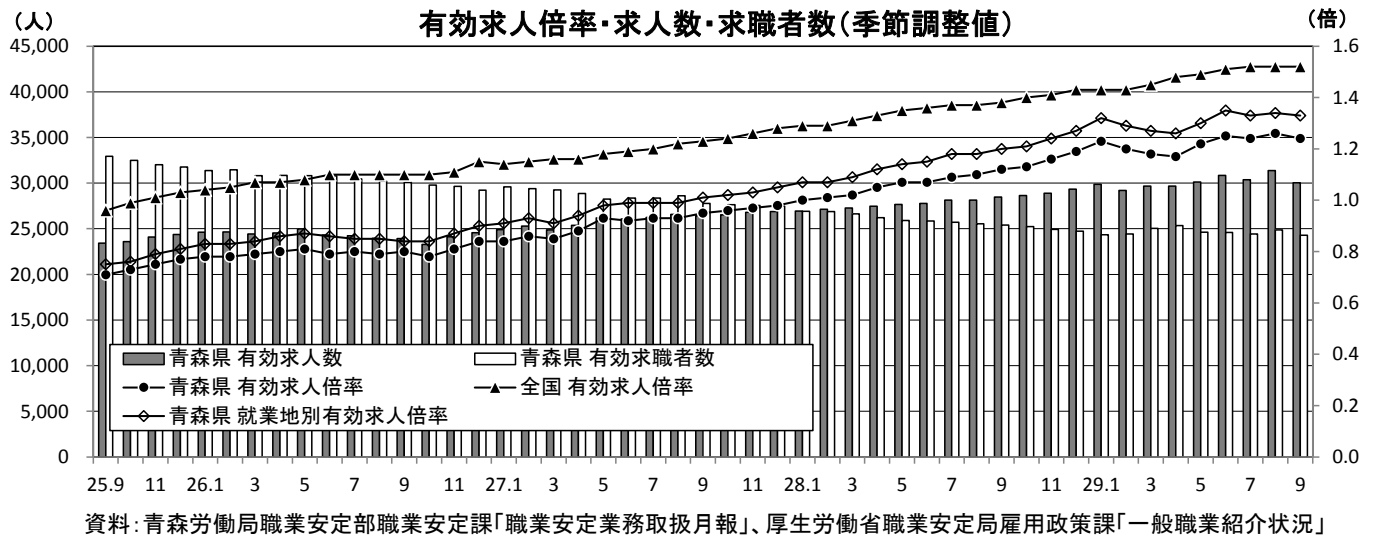
	実 数		指数(H27=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	245,172 円	273,886 円	97.7	87.4	6.8 %	0.7 %
定期給与	227,135 円	259,426 円	105.1	100.1	7.1 %	0.4 %
特別給与	18,037 円	14,460 円	—	—	—	5.7 %
総実労働時間	152.0 時間	139.2 時間	98.3	96.3	2.4 %	-0.8 %
所定内労働時間	140.4 時間	128.9 時間	98.1	96.6	0.9 %	-0.9 %
所定外労働時間	11.6 時間	10.3 時間	100.9	93.6	25.2 %	0.6 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

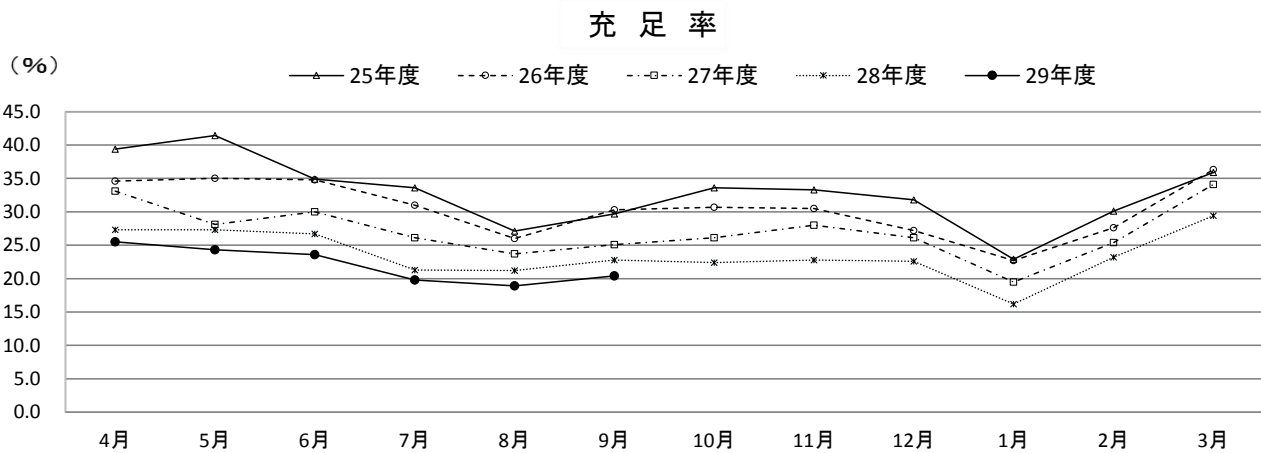
## (2-2-2) 有効求人倍率

平成29年9月の有効求人倍率（季節調整値）は1.24倍で、前月を0.02ポイント下回り、過去3番目の水準となった。就業地別有効求人倍率は1.33倍で、前月を0.01ポイント下回った。



## (参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

平成29年9月の充足率は20.4%で、前年同月と比べ2.4ポイント下回った。



## (2-3) 物価

平成29年9月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が100.3となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.9%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は100.8となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ1.5%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は101.4となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.5%の上昇となった。

総合指数が前月と同水準となった内訳を寄与度で見ると、被服及び履物(シャツ・セーター・下着類など)などの上昇、交通・通信(交通など)などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.9%の上昇となった内訳を寄与度で見ると、光熱・水道(他の光熱など)、教養娯楽(書籍・他の印刷物など)などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

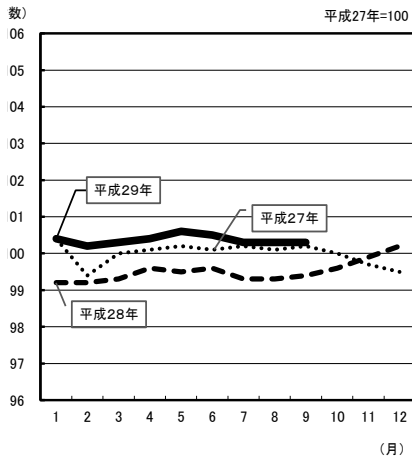


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

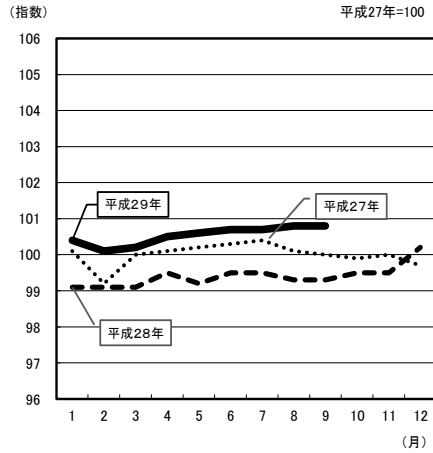
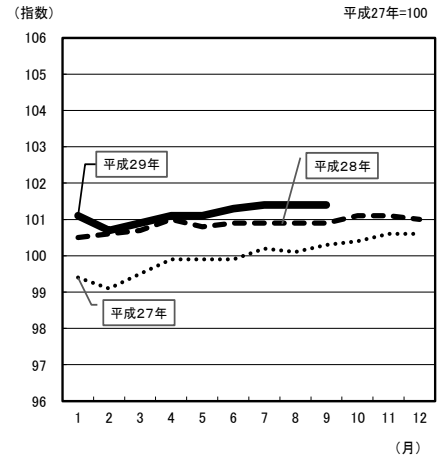


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



## 10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家・具・用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	100.3	100.8	101.4	100.6	102.0	91.1	99.9	96.7	99.1	101.0	102.4	96.8	102.5	103.8	101.8
前月比(%)	0.0	▲0.1	0.0	0.1	▲0.1	0.5	0.0	▲0.2	1.1	3.1	0.4	▲0.6	0.0	▲0.7	0.2
寄与度	—	▲0.06	▲0.01	0.03	▲0.03	0.02	0.00	▲0.03	0.04	0.09	0.02	▲0.08	0.00	▲0.06	0.01
前年同月比(%)	0.9	1.5	0.5	0.2	▲0.1	▲10.6	▲0.6	6.9	1.3	▲1.3	1.5	0.6	0.5	1.8	0.6
寄与度	—	1.40	0.44	0.12	▲0.04	▲0.51	▲0.12	0.69	0.05	▲0.04	0.06	0.08	0.01	0.15	0.04

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

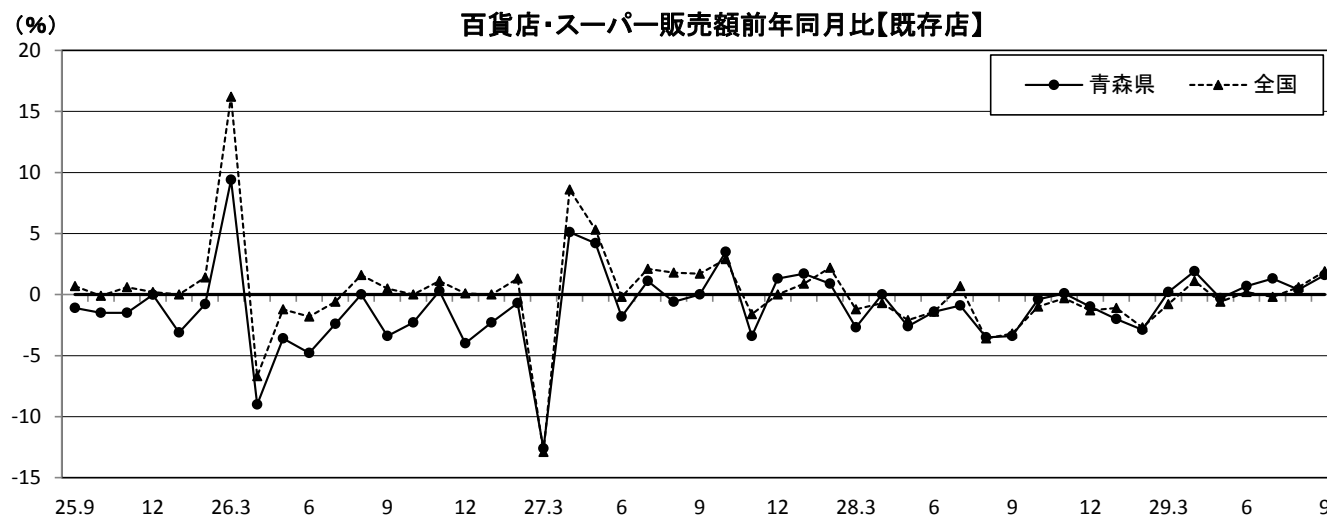
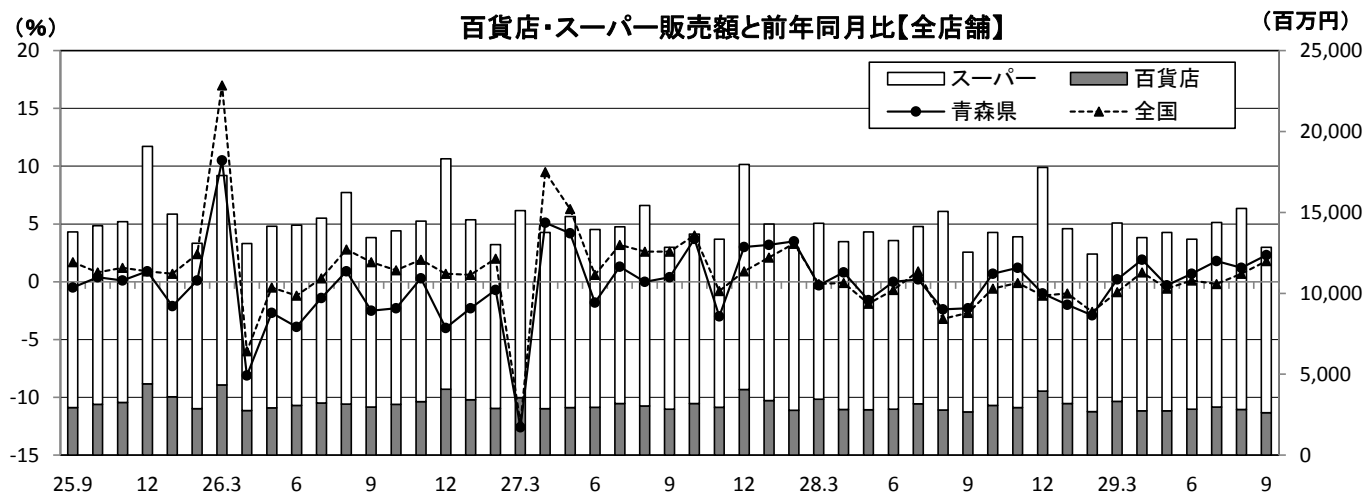
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

## (2-4) 個人消費

### (2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

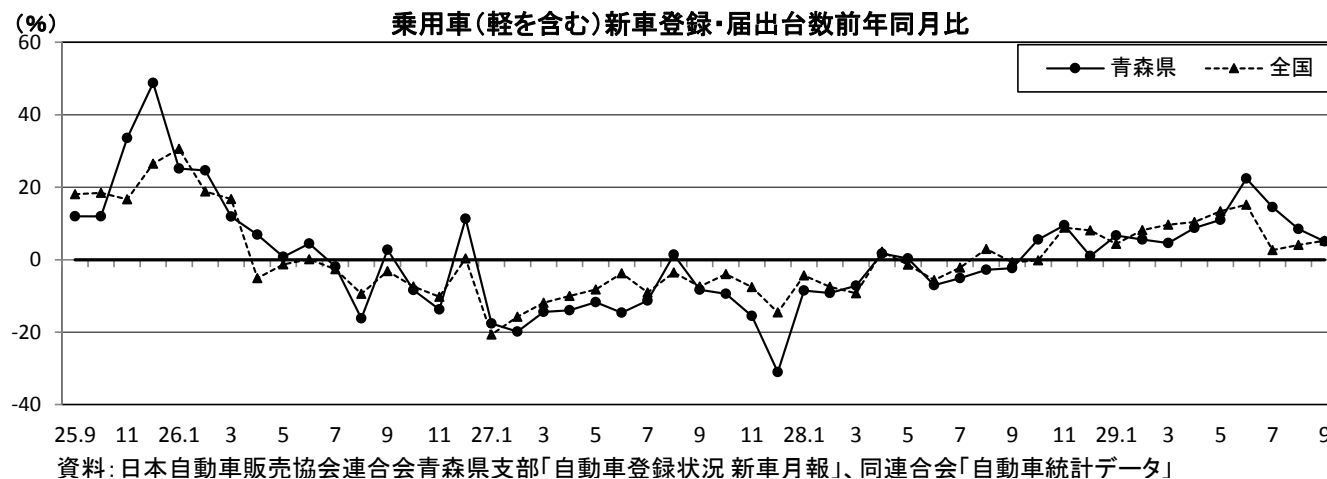
平成29年9月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが128億円で前年同月比2.3%増となり、4カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比1.6%増となり、4カ月連続で前年同月を上回った。



\* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

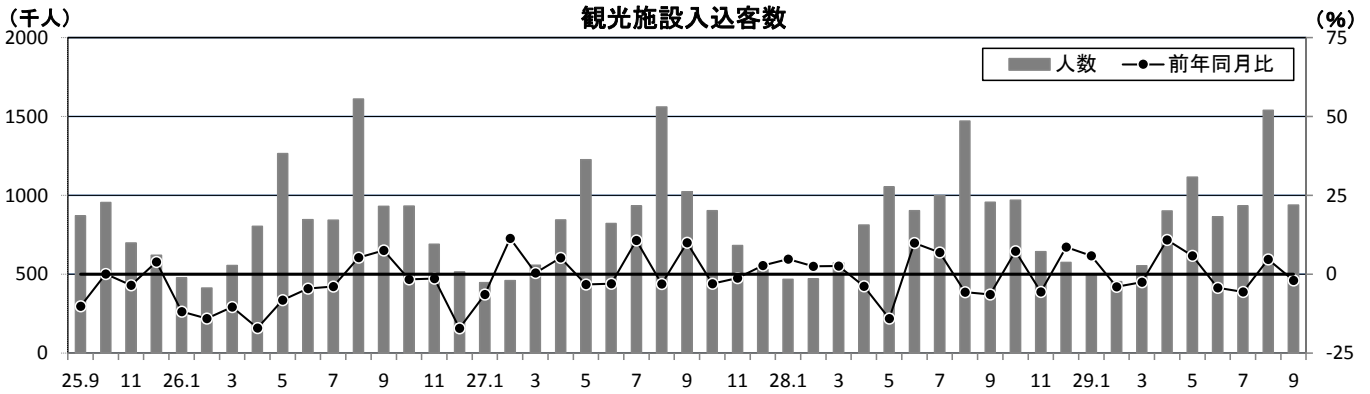
### (2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

平成29年9月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,356台で、前年同月比5.1%増となり、12カ月連続で前年同月を上回った。小型車、軽乗用車が増加したことによる。

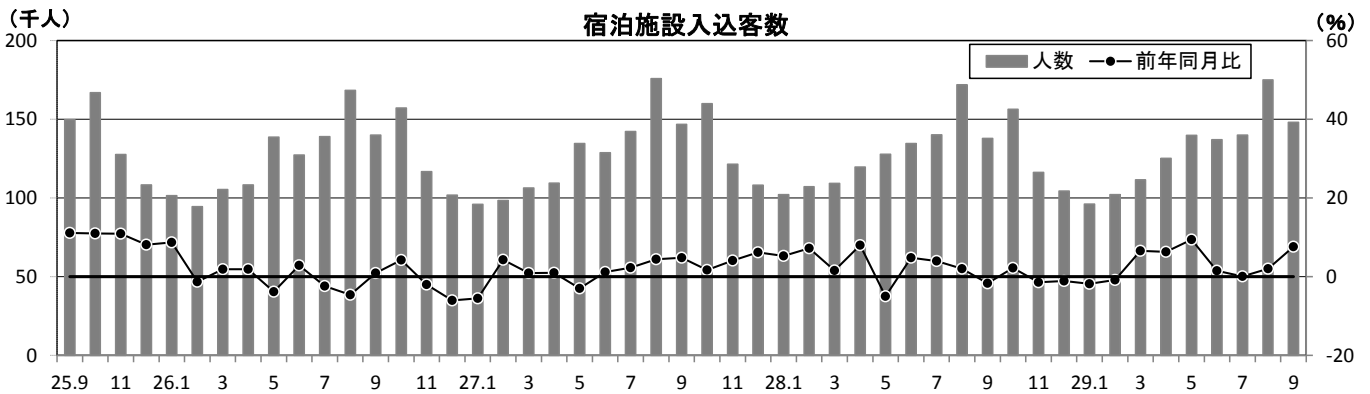


### (2-4-3) 観光入込客数

平成29年9月の観光入込客数は、主な観光施設が939千人で前年同月比1.9%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は148千人で前年同月比7.6%増となり、2カ月連続で前年同月を上回った。観光施設は青森市、弘前市、五所川原市、八戸市等の施設で減少し、宿泊施設は弘前市、むつ市の施設で増加したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設（H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比）

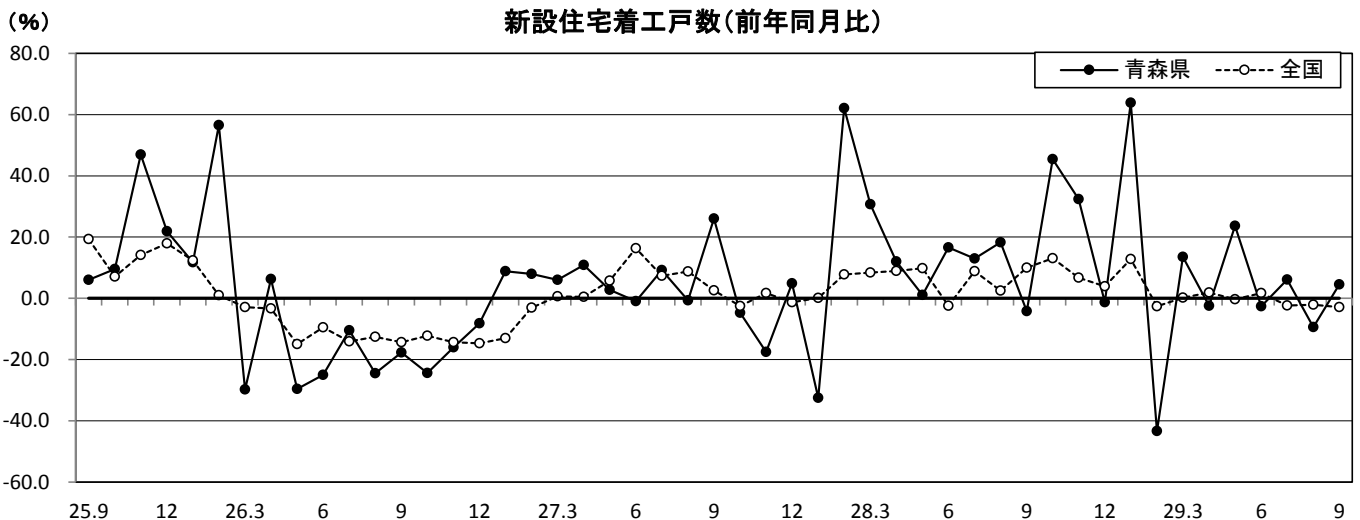


資料：県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設54施設（H24年1～3月は57施設、H24年4～9月は60施設、H24年10～11月は61施設、H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1～12月は55施設、H28年1月以降は54施設、H28年7月以降は53施設対比）

### (2-5) 建設

#### (2-5-1) 住宅建設

平成29年9月の新設住宅着工戸数は694戸で前年同月比4.5%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。持家、貸家が増加したことによる。

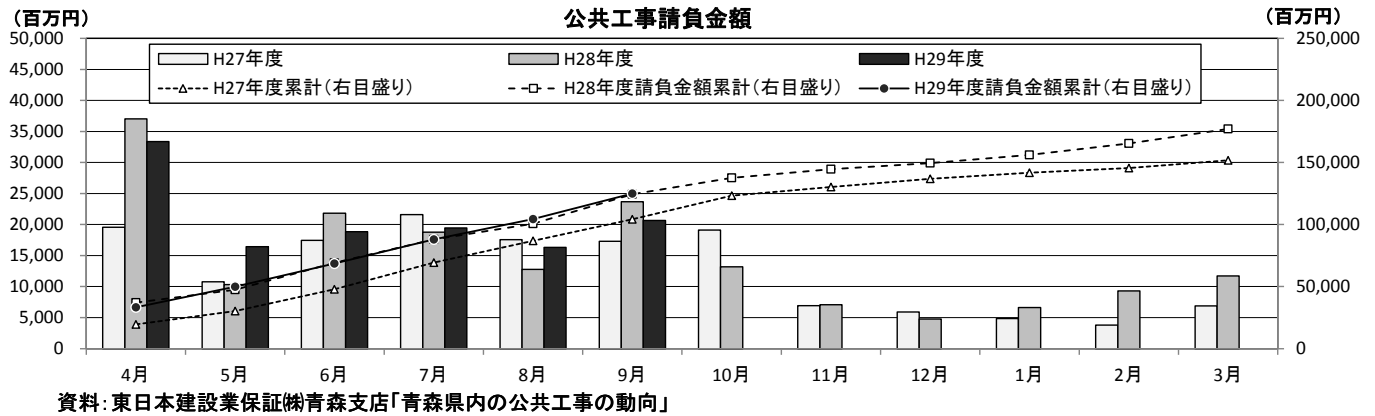


資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」



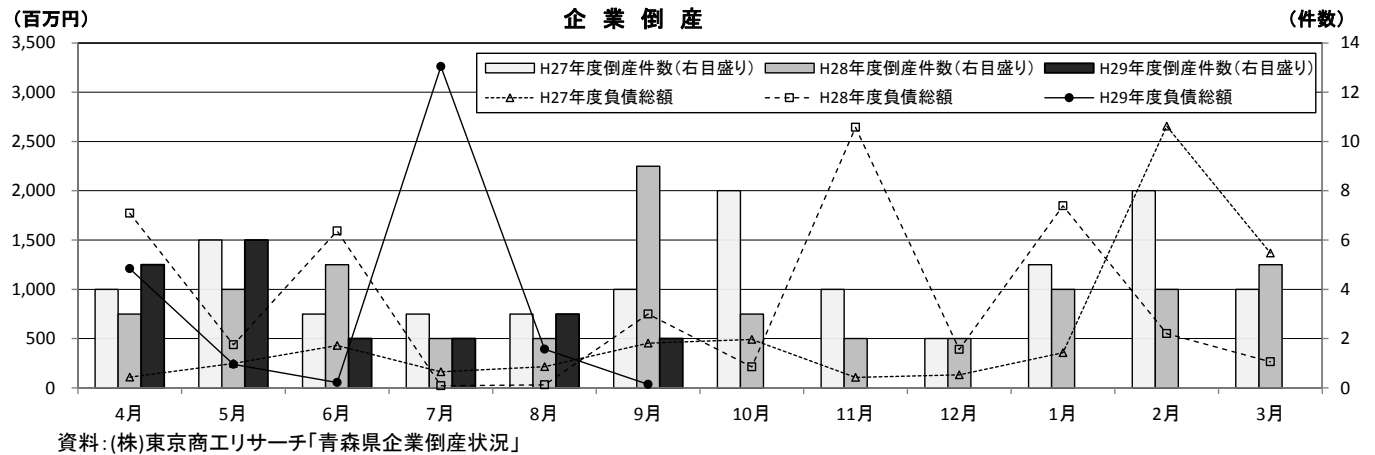
## (2-5-2) 公共事業

平成29年9月の公共工事請負金額は206億5,100万円で前年同月比12.8%減となり、国、市町村等の減少により3カ月ぶりに前年同月を下回った。また、平成29年9月までの累計金額は1,250億7,000万円で前年同期比0.5%増となった。



## (2-6) 企業倒産

平成29年9月の企業倒産は、件数は2件で前年同月比77.8%減となった。負債総額は3,500万円で前年同月比95.3%減となった。10億円を超える大型倒産の発生はなく、倒産件数及び負債総額の前年同月比は減少となった。また、平成29年9月までの累計倒産件数は20件で前年同期比20.0%減、負債総額は51億9,000万円で前年同期比12.8%増となった。



### (3) 青森県景気動向指数

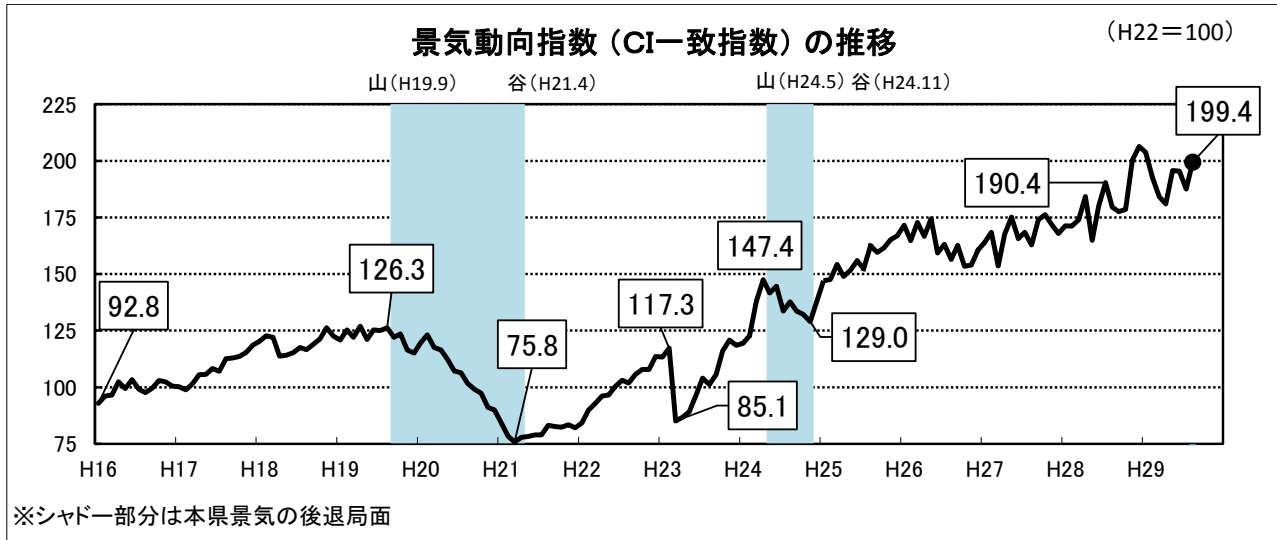
平成29年8月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 151.4、一致指数 199.4、遅行指数 117.5 となった。

先行指数は、前月を 6.2 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した。

一致指数は、前月を 11.9 ポイント上回り、3 カ月ぶりに上昇した。

遅行指数は、前月を 1.1 ポイント下回り、4 カ月ぶりに下降した。

8月の一致指数は生産・雇用関連の指標がプラスになったことから上昇した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
<b>先行系列</b>					
新規求人倍率（全数）	6.04	2カ月ぶり	建築着工床面積	-2.81	2カ月連続
日経商品指数（42種）	2.54	3カ月連続	乗用車新車登録届出台数	-1.84	2カ月連続
生産財生産指数	2.36	3カ月ぶり	新設住宅着工床面積	-1.31	2カ月ぶり
企業倒産件数	0.83	3カ月連続	中小企業景況DI	-0.02	2カ月ぶり
<b>一致系列</b>					
所定外労働時間指数（全産業）	5.01	2カ月連続	百貨店・スーパー販売額（既存店）	-0.71	3カ月ぶり
有効求人倍率（全数）	2.51	2カ月ぶり	輸入通関実績（八戸港）	-0.28	2カ月ぶり
投資財生産指数	2.32	2カ月ぶり			
鉱工業生産指数	2.17	2カ月ぶり			
旅行取扱高	0.95	3カ月ぶり			
<b>遅行系列</b>					
常用雇用指数（全産業）	2.76	2カ月連続	りんご消費地市場価格	-3.20	3カ月ぶり
公共工事請負金額	0.91	2カ月連続	有効求職者数（全数）	-0.86	2カ月連続
県内金融機関貸出残高	0.04	7カ月連続	家計消費支出（勤労者世帯：実質）	-0.82	2カ月連続
			青森市消費者物価指数（総合）	-0.14	2カ月ぶり

(参考) 青森県景気動向指数（D I）

先行指数	81.3%	（3カ月ぶりに50%を上回った）
一致指数	71.4%	（4カ月連続で50%を上回った）
遅行指数	50.0%	（2カ月連続で50%となった）

#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成29年10月期）

現状判断DIは、電気機械の受注増等があったものの冷夏の影響等もあり、前期比4.3ポイント減少の46.5となった。

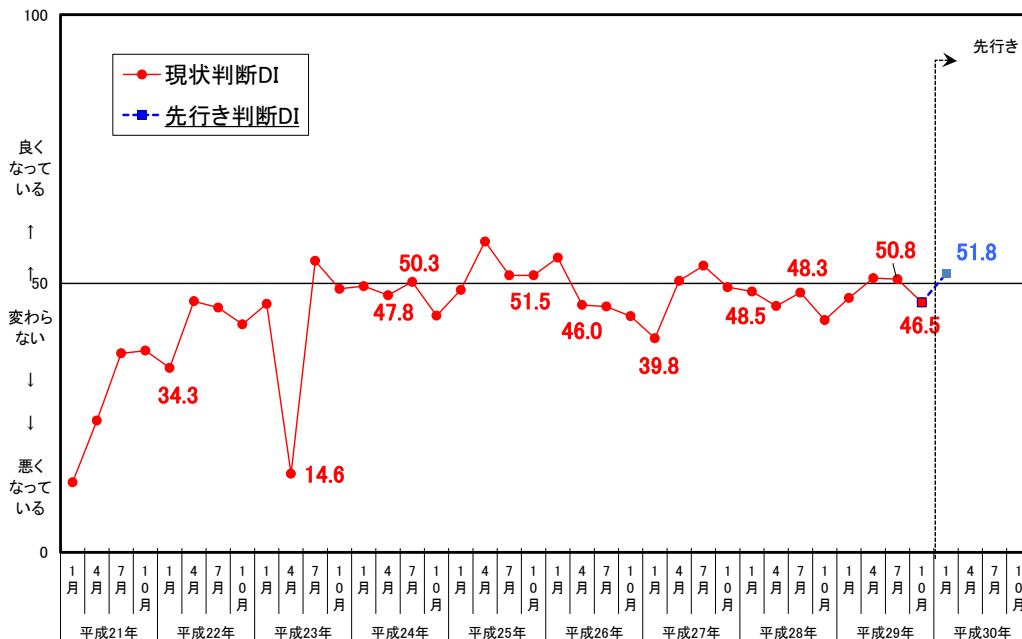
先行き判断DIは、最低賃金の上昇や消費税増税を見越した前倒し需要への期待があるものの原油価格等の上昇による影響への懸念等もあり、現状判断DIと比べて5.3ポイント増加の51.8となった。

3カ月前と比べた景気の現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を3期ぶりで下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を3期連続で上回った。

（調査期間 平成29年10月2日～10月20日 回答率100%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



#### ● 3カ月前と比べた景気の現状判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が3.0ポイント減少、「やや良くなっている」が1.8ポイント増加、「変わらない」が10.6ポイント減少、「やや悪くなっている」が10.8ポイント増加、「悪くなっている」が1.0ポイント増加したことにより、全体では4.3ポイント減少の46.5となり、景気の横ばいを示す50を3期ぶりで下回った。</p> <p>判断理由では、アウガへの市役所窓口機能移転、有効求人倍率の上昇、電気機械の受注増、農作物の生育が良好であることなどのプラス面がある一方で、冷夏の影響、人口減少による客数減少や夏祭り等のイベント終了による影響などといったマイナス面をあげる声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、県南地区ではポイントが上昇し、景気の横ばいを示す50を上回った。その他の3地区では減少し、50を下回った。</p>
--------	--

#### ● 3カ月後の景気の先行き判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなる」が1.0ポイント減少、「やや良くなる」が6.8ポイント増加、「変わらない」が8.6ポイント減少、「やや悪くなる」が1.8ポイント増加、「悪くなる」が1.0ポイント増加したことにより、全体では0.3ポイント増加の51.8となり、景気の横ばいを示す50を3期連続で上回った。</p> <p>判断理由では、最低賃金の上昇や消費税増税を見越した前倒し需要への期待等によるプラス面をあげる声があった一方で、送料や原油価格の上昇及び消費の分散化や節約志向などを懸念する声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、東青地区と下北地区でポイントが減少した。下北地区では景気の横ばいを示す50を下回り、その他の3地区では50を上回った。</p>
--------	---

### (3)判断理由

#### ○3ヶ月前と比べて景気の現状判断理由

○	アウガに市役所窓口移転を起点にした動向が中心街区の雰囲気を押上げている。ワクワク感は周辺でも。(衣料専門店=東青)
○	一般的景気が上回っている風潮 農作物良好(衣料専門店=津軽)
○	新型スマートフォンの発売でピークを迎えている。(電気機械製造=津軽)
□	大きな社会変動もなく、手持ちの仕事で順調に推移したように見受けられる。(設計事務所=東青)
□	4～9月の月別の入場者数は前年比増加が3ヵ月、同減少が3ヵ月となっている。(観光名所等=東青)
□	秋物商品の一部に動きはあったものの天候不順・不漁による生鮮食品の高騰や食品・サービス料金の値上げ等の影響のためか価格に敏感になっていると感じられるため。(百貨店=県南)
□	良くなる傾向もありつつ、北朝鮮情勢の問題もあり、先が読みづらい。現状を見ると、館内消費額は上昇しているので、情勢安定すれば上向きにいくだろう。(観光型ホテル・旅館=県南)
□	八戸は夏から巻き網船などが入ってくる為、町はにぎやかになりますが、その他地元の企業にかわりはないと思います。(スナック=県南)
□	有効求人倍率の上昇、賃金の上昇も報道されるが、社会保険料の上昇などにより実質可処分所得は増加が感じられず、個人消費の増加に結びついていない。(ガソリンスタンド=県南)
□	お盆の帰省や祭りの観光客も例年に比べそんなに増えた感じもなく、逆に悪天候で人の動きが悪かったような気がします。(ガソリンスタンド=下北)
□	クライアントの数値を見ていると7月までは堅調な利益を上げていたが8月は利益の伸びがぱったりと止まった。冷夏の影響で個人消費が伸び悩んだのではなからうか。(経営コンサルタント=県南)
△	大きいイベント等が終わり、現在は来街者や買物客数が落ち着いてきた。(商店街=津軽)
△	8・9月の冷夏の影響(一般飲食店=津軽)
△	急に気温が下がってきたのと油関係が値上がり傾向だから(商店街=県南)
△	食堂での仕事なのですが(夜9時まで)人が歩いていない。(一般飲食店=下北)
×	3ヵ月で知り合いの4店舗が閉店、私たち飲食業は何故これほど悪いのでしょうか。やはり不景気の挙句、又選挙で踏んだり蹴ったりです。悲しく寂しいです。それなりに営業はしていますが、まあ12月に向けて頑張るしかありません。(スナック=東青)

#### ○3ヶ月後の景気の先行き判断理由

○	消費増税のために前倒しする顧客の動きが出始めるため。(住宅建設販売=東青)
○	極端には変化はないと思う。けれども、このころは外人の観光客も多くなったように思う。(タクシー=県南)
○	最低賃金の上昇等少しはゆとりができてきているように思う(食料品製造=津軽)
○	あいかわらず、盛り上がりには欠ける感はあるが、需要期に向けての確実な動きが感じられる。(飲料品製造=県南)
○	有効求人倍率が上がり、初任給の上昇に見られるように、個人の給料も上昇基調にある。個人の所得が上がれば、必ず、消費は回復すると期待する。(経営コンサルタント=県南)
□	予約状況は例年と変わらないが、人手不足が深刻になりつつあり、サービス等の低下が懸念される。(都市型ホテル=東青)
□	我々業界は本来であれば春先が多忙であるべきだが、最近11月・12月が比較的忙しい。(住宅建設販売=津軽)
□	一般消費者の賃金体系に変化(上昇)がみられそうにないため(衣料専門店=県南)
□	選挙も終わると消費が動くことが考えられる。(設計事務所=県南)
□	消費の二極分化傾向が続きモノからコトへ移行していく中で、高額品や衣料品の動きは鈍く、全般的に消費は盛り上がりには欠け、回復している実感がないため。(百貨店=県南)
□	これから観光もオフシーズンになり、年末年始の宴会予約の動きも大きな変化はない。(都市型ホテル=下北)
□	景気は安定していると感じています。(経営コンサルタント=津軽)
□	工事物件に対する見積もり依頼数等が特に増減なく現状のまま変わらないと思われる。(広告・デザイン=津軽)
△	油関係は今後も上がりそうに加え、選挙が行われるから。(商店街=県南)
△	消費の分散化と節約志向は今後も続く(スーパー=県南)
×	原油価格が再び上昇していることに加え、これからは暖房用の燃料費が家計を圧迫する時期に入るので。(タクシー=東青)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」